

平成 20 年 10 月 9 日

第 2 期「区民会議」検討課題に対する意見

自転車と共生するまちづくり委員会
委員長 芳 賀 誠

1 委員会活動としての取り組み

自転車と共生するまちづくり委員会として、平成 13 年度から次のような取り組みを武蔵小杉駅周辺で実施しています。

- ① 駐輪場の案内板設置や駐輪場所を案内するパンフレット配布
- ② 駐輪場利用促進を促す呼び掛け活動
- ③ 自転車マナーやモラルアップを呼び掛ける広報物の作成及び全町内会への配布
- ④ 社会実験による利用者心理分析や駐輪場の料金格差制度導入を提言
- ⑤ 私有地借用による臨時駐輪場の設置
- ⑥ 放置自転車の実地台数調査（毎年 11 月第 2、4 週 9 時から 21 時まで 3 時間毎）
- ⑦ 放置自転車解消に向けた自主イベント・パレードの開催
- ⑧ 地域イベント（区民祭・市民活動の集い・さくら祭り等）への積極的な参加

活動が功を奏した点としては、駅周辺の各駐輪場の利用率が飛躍的に向上したことが挙げられる。

- 活動当初は、駐輪場の場所によって 6 割程度の利用率だったものが、今では駅周辺全体で約 130% の利用率になっている。この利用率の向上で、2,000 台近くの自転車が収容されたこととなる。
- その一方で、平成 15 年 11 月の駅周辺放置自転車数調査で 1,500 台あったものが、昨年同時期（11 月）の調査でも 1,500 台という数字が変わっていないのが現状でもある。

一概に結論付けられるものではないが、駐輪場を利用する人が増えて街中が綺麗になっても一過性のもので、新たな放置自転車が増えているというのが事実である。

2 中原区の地域性

中原区の地形はご存知のとおり井田山を除き、大部分が平坦なものである。しかも武蔵小杉駅は JR と東急電鉄の結節駅でもあり、通勤・通学者にとって自転車は非常に便利な交通手段である。

また、再開発に伴い横須賀線新駅も平成22年春には完成する予定となっており、小杉駅周辺は利用者にとって益々便利な駅になると思われる。現段階では、新駅利用者の動向や導線は推測の域ではあるが大きな変化が予測され、現在の駐輪台数の変化（駐輪場所の変更）や新規流入車などへの対応が必要である。

当委員会では、平成17年度末から「駅前の駐輪場は、ほぼ満杯ですので駅から近くに住む方は歩きましょう。遠くから来る方に駐輪場を譲りましょう」と提唱して、500m・700m・1,000mを目安としたチラシを作成し全町内への回覧を実施しました。

→ 一般論ですが、ウォーキングの効果は有酸素運動としての血液循環の促進による心肺機能の向上、体脂肪の燃焼による肥満解消、中性脂肪の低減や肝機能の向上、骨に対する適度な刺激による足腰の強化、また新陳代謝が活発になることによる美容効果まで多彩である。

3 駐輪場の設置

駐輪場は、行政や鉄道事業者、または店舗（商店街）など義務的に設置して貰わなければ簡単に増えるものではない。

また、利用者の立場から考えると「より近く」「公共性の高い必需品」という観点が大半であり、行政（税金）で駅前に駐輪場を建設するのが当然という声が多いのも事実である。

しかし、行政が用地取得も含めると1台あたり数百万などと掛けるのは、公費の削減や行政改革とは逆行する施策であり、自転車を利用しない人や駅周辺にお住まいの方々にとっては決して納得の出来る方法ではない。

→ 委員会の活動でも、駅周辺の空地や既に駐輪場と化している幅員のある道路を「駐輪場に出来ないか？」という視点で調査し、毎年関係機関へ提案をしている。

4 マナーモラルの遵守

公共マナーやモラルの低下が話題となっている昨今だが、自転車を動かしている人に対するアプローチの仕方が課題である。放置自転車は結果であり、乗る前に手を打たないと結局のところ自転車は集まってきてしまう。

「俺の1台くらい良いだろう」「みんなが停めているのだから」というのが、呼び掛け活動の際によく耳にする言い訳で、「駐輪場を造らない方が悪い」という批判めいた発言もよく出てくる。タバコのポイ捨てや落書き、信号無視など社会モラルやマナーを守るという概念が希薄となり、点字ブロックなど障害のある方への配慮を考える余地も無い状態である。

放置自転車対策とは、駐輪場を作るのではなく、人間としてのモラル作りも同時に

行われなければ本質的な解決とはならない。

→ 現在の委員会活動の基本となる視点として、マナーモラルの啓発を重点的に訴えている。出来る限りイベント等へ出展し、子供をターゲットとしたマナークイズや付き添いの親に対してのアンケート調査などを実施している。

(小学生の頃までは、交通安全教室や啓発内容にも素直に応じているが、中学生になった途端、マナーやルールに反抗してくるというのが我々の率直な感想である)

5 結論と提案

放置自転車対策としては、駐輪場を作ることが全てではなく、「譲り合いのこころ」や「公共の福祉」の観点で啓発していく必要がある。

放置自転車問題は、区内の特定地域だけの問題として対処するのではなく、社会モラルを向上させる意味においても中原区全域の問題として、区民会議に参加されている各種団体の代表者や傍聴されている方々それぞれの立場で考えて頂きたい。

また、新たな提案として「駅から遠くの駐輪場所を確保し、そこから歩く」という施策を導入いただきたい。これは用地取得の低廉化もあるが、前述のとおり健康のためにウォーキングを敢行し、中原区全体で取り組む価値のあるものとする。

当委員会は、今後もマナーモラルの啓発は勿論実施していくが、自転車ばかりが悪者ではなく「共生していく」視点も忘れずに活動していく所存である。

自転車に乗る人	自転車に乗らない人
免許も無く、手軽に乗れる乗り物	一方通行の逆走や人混みでの危険運転
荷物を運ぶ手段（特にお年寄り）	緊急車両の不通や自転車起因の事故
自分の都合で出発できる	乗る人だけが優遇される不公平感
エコ（環境に配慮した）な乗り物	景観上、まちの価値を低下させている

← 共生・共存を探る →
安全安心で住み易い、住んで良かった中原区